



高学年としての自覚の高まりに…

校長 永井 有司

晩秋の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、9月から10月にかけて、学校を支えて頑張っております5年生、6年生が宿泊学習に行ってきました。私自身も付き添って子どもたちの様子を見守ってきましたので、活躍の様子を少しお伝えしたいと思います。

まず、9月28日(木)～30日(土)に、5年生が館岩自然の教室に行ってきました。自然の家のある福島県南会津郡は、さいたま市とは気候も環境も全く違います。周囲は山々に囲まれ、9月末には最低気温が5℃を下回ります。心配していた雨の影響もほとんどなく、ほぼ予定通りに計画をこなすことができました。山登りは参加者全員が山頂まで行くことができました。子どもたちがお互いに励まし合っている姿を随所に見ることができました。また、キャンプファイヤーでは、明るく燃え盛る炎を一つの輪になって囲む姿に団結力を見せられて感動いたしました。また、イワナさばきでは実際に生きている魚を自分でさばき、命をいただくことの大切さを噛み締めることができました。何事にも全力で取り組む5年生たち、2日間とも夜はぐっすり寝ていました。そして、館岩少年自然の家の所長さんをはじめ、所の先生方が口をそろえてほめてくださいました。大きな成長を見せてくれた3日間でした。



続いて、10月24日(火)～25日(水)に、6年生が日光方面に修学旅行に行ってきました。台風接近で心配しましたが、2日間の行程は雨に影響されることもなく、とても充実した2日間を過ごすことができました。水量が通常の10倍もあって迫力満点の華厳の滝、風が穏やかだった戦場ヶ原ハイキング、美しい紅葉に見とれた中禅寺湖遊覧船、平成の大修理後の美しい陽明門が見られた日光東照宮。けれども、一番感動したのは、6年生の素晴らしい態度でした。最高学年として自覚をもって行動しているのがよく分かりました。またしっかり挨拶をしたり、友達に優しい言葉をかけたりする姿があちこちで見られ、心が温まりました。残り半年の活躍の姿が目に見えるようでした。

素晴らしい高学年に支えられているからこそ、大宮別所小学校が落ち着いているのだと思います。素直な子どもたちばかりですので、まだまだ伸び代はたくさんあります。これからの半年間の成長がとても楽しみです。低・中学年の児童の皆さんも、高学年の児童に負けないように頑張ることを期待しています。

* * * * *

10月の講話朝会では、今年7月に享年105歳で亡くなられた聖路加病院名誉院長の日野原重明先生のことを紹介しました。生前、日野原先生は、30年間もの長きにわたって小学校4年生を対象に『いのちの授業』をなされ、「命とは皆さんが自由に使える時間のことです」と話されておりました。「命=時間」ということになると、「時間を無駄にしないで、一日一日を大切に過ごそう」という気持ちになってきます。私自身、子どもたちに話しながら、自分の半生を振り返り、「無駄にした多くの時間を、これからは大切にしなければ……」と反省することしきりでした。

さらに、先生は4年生の子どもたちに「若い時は自分のために時間を使っていいけれど、大きくなったら、誰かほかの人のために使ってください」と話されました。先生は、よど号ハイジャック事件に巻き込まれて助けられた時に、「これからの人生は、ほかの人のために」と決意を固められたとのこと。波瀾万丈の人生を歩まれ、決意通りの人生を歩まれた日野原先生の言葉だからこそ、とても重みがあります。当時、先生は50歳台でした。私は「今からでも遅くない」と自分に言い聞かせております。私に与えられた大宮別所小学校という場所、そしてここに通う愛する子どもたち、私にとって命を注ぐべきはまさにここであるとの自覚を新たにさせられました。